

2024 年度年次報告書

パンデミックに対してレジリエントな社会・技術基盤の構築

2023 年度採択研究代表者

池内 和彦

東京大学 医学部附属病院

助教

パンデミック下の性感染症の実態把握と対策立案

2024 年度年次報告書(公開版)

研究成果の概要

本研究では、感染症の伝播や社会的影響に関する複数の解析を行った。梅毒の解析では、JMDC データを用い、男女で罹患率に大きな差があること、収入の影響、若年夫婦での女性の梅毒罹患率の高さを明らかにした。また、同データベースを用い、HIV や COVID-19 による離職への影響も検討した。HIV 患者は一般集団と比較して CD4 陽性リンパ球数が低い症例では離職率が高い一方、免疫が保たれている症例では離職率は一般集団と変わらず、早期診断の重要性が示された。COVID-19 では第 1 波で高い離職率を示したが、徐々に離職率は低下し、オミクロン期では一般集団と同等になっていたことを明らかにした。家庭内伝播の解析では、COVID-19 に対する抗ウイルス薬が二次的な感染伝播を抑制するかを評価した。また、一般集団を対象とした大規模なアンケート調査である JACSIS/JASTIS 研究にも参画し、MSM における健康格差や社会的課題を明らかにし、今後は一般集団の性行動に関する調査を計画している。免疫抑制と感染症との関連では、抗 CD20 抗体使用者で慢性 COVID-19 の再燃リスクが高いことを示した。各研究は論文・学会発表を進めている。